

花

新潟大学の魅力と現在を発信 いま

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2016.SUMMER



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE


No. 17

授業紹介 -教育の現場-
学生の課外活動&サークル紹介 Enjoy! 学生ライフ
シリーズ 恩師と語らう
注目される研究報告
Campus Information

特集
国立大学に
期待される
人材育成とは



真の強さを学ぶ。

 新潟大学

グローバル人材の育成や、
イノベーションの創出、
地域創生・活性化への貢献などの
社会の期待に応えるべく努力していきます。



産業界が求めるのは
「自ら考え、自ら行動する人」。
具体的にいうと1つは思考力、
2つ目は実践力が必要です。

新潟大学学長 高橋 姿 (左)
富士ゼロックス株式会社顧問 日比谷 武 様 (右)

—富士ゼロックス顧問 日比谷様との対談—

新潟大学では、全学の理念にある「自律と創生」の実現に向けて、
社会の変容と価値観の変化に対応しながら
環境の構築と改革を行ってきました。
そして、平成29年4月には到達目標創生型の
新しい教育プログラム「創生学部(仮称)」の新設や、
理・工・農学部の改組などを計画し、
社会が求める人材育成を進めています。
平成28年4月12日、「国立大学に期待する人材育成」をテーマに、
経済同友会会員でもある富士ゼロックス株式会社顧問の
日比谷 武 様と高橋 姿学長が富士ゼロックス株式会社の
研究・開発・生産拠点である富士ゼロックスR&Dスクエア、
お客様価値創造センター(神奈川県横浜市西区みなとみらい)にて
対談を行いました。

特集 国立大学に 期待される 人材育成とは

2016.Summer vol.17

CONTENTS

03 特集

国立大学に期待される 人材育成とは

—富士ゼロックス顧問 日比谷様との対談—

08

授業紹介 —教育の現場—

09

Enjoy! 学生ライフ

10

シリーズ 恩師と語らう

11

注目される研究報告

12

Campus Information



Cover Photo

今号よりデザインを一新。平成25年4月に改築した中央図書館は玄関前の円形に設計された雨よけが印象的な建物。年間延べ100万人近くの学生や一般の方々が知の探求に動んでいます。

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。



題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。
現在は、岐阜女子大学 教授

公式Facebookページ更新中!

新潟大学 Facebook

本学ホームページからアクセスしてください。

ホームページで発信するニュースのほか、
四季折々のキャンパス内の風景など新潟
大学をもっと身近に感じていただけるコン
テンツを発信しています。多くの皆さまの
「いいね!」をよろしくお願いいたします。

高橋学長 本日はお忙しいところお付き合いいただきありがとうございます。日比谷さんは経済同友会の「学校と経営者の交流活動推進委員会」の委員長を務められていらっしゃる関係で、生徒や学生と接する機会が多いと聞いていますか。

日比谷様 そうですね。いろいろありますが、よく「企業ってなんだ？」という話をします。学生に「企業で一番大事なものは？」と聞くと「利益」という答えが返ってくることも多いですね。もちろん利益は大切ですが、その利益はどいうやって生まれるのでしょうか。これは「信頼」です。企業というのは「価値を創造するもの」であり、価値を創造するから対価をいただくことができる。「日本の課題ってなんですか？」という話もよくしますね。財政面での課題、少子高齢化や地方創生、環境問題や資源の枯渇など、いろいろな意見交換をする中で、最終的には「Think Globally. Act Locally」(地球規模で考えよう、地元から行動しよう)といったところへ話が進みます。

教育の二環と二つのインターンシップ

高橋学長 企業の方とそういった機会を持つことが刺激になり、学ぶ意欲の向上にもつながると思います。

友会も今年から、新潟大学を始め11の大学と実践しています。**高橋学長** 企業の若い社員の方が、自分の反省を踏まえて、学生に「今こんなことを考えるべき」、「こんなことを学ぶべき」などの貴重なアドバイスをもらえると思います。インターンシップで刺激を受けた学生が、周りの友人にその経験を語る。友人も経験はしないけど、そんな機会が貴重であることは理解できます。次に友人がインターンシップへ行き、同じような刺激を受けてくる。そして後輩にも伝える。いろんな学生が影響を受けて、キャンパスの雰囲気は変わっていくと素晴らしいと思います。受け入れる企業にとつては大変かと思いますが、この取り組みで育つ人材は、社会のニーズに合致する人材となる可能性が高いサムシングを持った人材。その企業に直接メリットが必ずしもあるわけではないかもしれませんが、社会には確実にメリットとなります。

産業界が求める人材とは

日比谷様 端的にいえば、「自ら考え、自ら行動する人」ですね。具体的にいうと1つは思考力です。組織で怖いのは思考が停止する状態になること。例えば、企業文化も変わっていくと思いますが富士ゼロックスは何を大切にしてい

ます。そういった機会のつとして、低年次でのインターンシップという取り組みは効果があると考えていますか。

日比谷様 おっしゃるとおりだと思います。早いうちにインターンシップで職場体験すると、少しかもしれないが企業等を見て、感じて、世の中のがれ、課題、潮流が身近になり物事を考えられる。働くってそういうことなんだということ、なるべく早くから考えることが意味のあることだと、最近ますます確信してきています。

高橋学長 そうですね。私が期待するのは「教育の一環」であるインターンシップです。今日的な問題として、高校生から大学生への転換を支援するための教育が重要であるといわれています。大学では、学びに対する熱い気持ち



期待するのは「教育の一環」であるインターンシップ

ないと、自ら課題を探して挑んでいくことができません。そのきっかけの一つとしてインターンシップには期待しています。学生にとってすごいインパクトがあると思っています。**日比谷様** インターンシップを単なる就職のHow Toとして捉えるのではなく、企業も大学も学長が言われた意義を理解すべきだと思います。大学時代に何を学び続けるべきかの気づきの場として、1・2年生の早い段階で経験する事は大切だと思います。経済同

るのかということ、ローカルの随所で考えて、お客様に価値を提供していく人です。2つ目は実践力です。評論家は必要ありません。企業の競争力の源泉は「人」と「企業文化」です。

(笑)。議論を戦わせることは大切ですが、今の時代、それがいじめや仲間はずれにつながることもあり注意しなければなりません。**日比谷様** よく3年で新入社員の3割が離職するという話があり

ますが、入社してすぐ見切るのでなく、忍耐というか、少しお説教っぽくなりますが、勤労観というか、そういうものを繰り返して考えていくのもいいし、組織というものの、地域というものを良くし

組織で怖いのは思考が停止する状態になること

高橋学長 新潟大学は、「自律と創生」を全学の理念に掲げ、自分で物事を考えられるような人材を育成しています。新潟という土地柄もあるのかもしれませんが、まじめでおとなしいが粘り強く取り組む学生が多いように感じます。

日比谷様 最近の学生はコミュニケーション力があり、SNSなどからの情報発信力もある。ただ、「いい仲間」や「お友達」ばかりで固まっているような気がします。そうじゃない違った意見をもつて集まっているのであれば素晴らしいと思いますね。

高橋学長 そうですね。私が学生時代だった時のように「肝胆相照らす」ようなところが少ないような気がします。昔は議論し出して大喧嘩になることもありまし



Sugata Takahashi

新潟大学学長 高橋 姿

新潟大学医学部卒業。博士(医学)取得(1991年10月、新潟大学)。新潟大学助手、聖マリアナ医科大学助教授を経て、1998年新潟大学医学部教授。医学部長、医歯学総合研究科長を歴任し、2014年新潟大学学長就任、現在に至る。2015年6月からは国立大学協会の副会長も務める。

新しい教育プログラムを展開する「創生学部」の新設について

高橋学長 新潟大学の機能強化基本戦略では、新潟大学型質保証による学位プログラムの推進の一環で、学生自らが学びの目標を定め学修をプロデュースする「創生学部」を平成29年4月から開設する予定で準備を進めています。今ほど日比谷さんが言われた産業界が求める人材である「自ら考え、自ら行動する人」を輩出する教育プログラムを展開します。





リーダーシップを 発揮するためには 知識の収集が重要

Takeshi Hibiya

富士ゼロックス株式会社顧問 日比谷 武

慶應義塾大学卒業後、富士ゼロックス株式会社に入社。アメリカ駐在などを経て、総合企画担当部長を歴任。2010年常務執行役員人事本部長に就任する。現在は、同社顧問のほか、上智大学特任教授、昭和女子大学理事、経済同友会「学校と経営者の交流活動推進委員会」委員長も兼務。

製作所相談役）や、代表幹事を務めた小林（故 小林 陽太郎様・富士ゼロックス元会長）から学んだことですが、企業のトップに必要なことは4つあります。1つは、正しい認識を歴史観・大局観に基づいて判断すること、2つ目は、判断軸の基礎となる教養、人間としてやってはいけないことを認識すること、3つ目は、アカウントビリティ。なぜ、なんのためにやるのかということを丁寧に、時間をかけて関係者と対話する、4つ目は、断固実行です。そんな中でリーダーシップを発揮して物事にあたるための知識の収集は非常に重要です。なんで小林があんなに尊敬されるのかなと考えると、ベースとしてヒューマニティがあり、現場の人を大切に、真摯にコミュニケーションをとっていたことかなと思います。

地球規模で 物事を考える視野を もつことが大切



日比谷様 事前に資料を拝見しました。とても魅力的に感じますね。こんな素晴らしい教育プログラムの実行と継続には、担当する先生の負担が大きいと思いますし、教員と学生の間にいる事務職員の意識改革も必要であると思います。広報も大切ですね。このディプロマポリシーを、情熱を持ってこなしていけるモチベーションの高い高校生たちに伝えなければなりません。

高橋学長 創生学部開設に伴って、新たに専任教員を8人採用する予定です。その他にも専門教育である「領域学修科目パッケージ」を提供する6学部からも専任教員を迎えます。フィロドスタデイズ（校外学習）やインターンシップなどで社会の方々からも参画があつてよいと考えています。

日比谷様 生涯学習の意味である、教えることは学ぶことです。社会人が教えることで、新しい学びの



グローバル化の 進展について

高橋学長 私は、入学式や卒業

方法も生まれると思います。新設される創生学部を期待します。

式でよくグローバルについて話します。世界を相手に仕事をしなさいというのではなく、例えば新潟にいても、海外にいても地球規模で物事を考えられる広い視野をもつことが大切であり、世界の座標軸の中で自分は何のポイントにい

るのか、それを考えることが大事だと思っています。

日比谷様 富士ゼロックスでは、創業数年後には韓国やタイに進出しました。それぞれの国のローカルな資本（現地企業）と連携し、企業活動を行ってきました。基幹人材を育成するため、有望な人材を国際大学（新潟県南魚沼市）へ行かせMBAを習得させたり、海外の優秀な人材を日本に呼び寄せ、徹底的に教育したりする取り組みを行ってきました。ある時期からその制度を進化させ、現地の優良な教育を受けた優秀な人材を採用し、ローカルの人材にグローバルな視野を持つて主体的に活動してもらうことを進めています。

高橋学長 先ほど、本学の卒業生で総務部長さん（本学S59卒業）が十数年間信州にいて、それからタイで5年9カ月活躍してきたとの話を聞き、非常にうれしく思いました。信州で仕事をしていたのもローカルでなく、発想はグローバルで広い視野を持つて行動してこられたのでしょう。だから苦労は多かったと思いますが、ちゃんと適応でき、成果をあげられたのだと思います。

日比谷様 グローバルな人材という英語力が連想されます。英語で人を感動させるようなレベルにはなかなか達しませんが、ビジネス英語あたりはマスターしておきたいところです。英語力を高め



るためには、母語の語彙力や教養に裏打ちされた常識力が必要であると実感しています。その場の状況を見極める力、文化を理解した常識力などがないと相手の信頼を勝ち取ることはできません。

リーダーシップ について

高橋学長 人材育成・イノベーションの拠点として、大学が教育研究機能を最大限に発揮していくためには、学長のリーダーシップの下で、戦略的な大学運営が求められています。コーポレート・ガバナンスが大学ガバナンスを整理する面で大いに参考になると考えていますが、企業におけるリーダーシップについてどのようにお考えですか。

日比谷様 経済同友会でお世話になった北城格太郎さん（元日本IBM社長）、川村隆さん（日立

対談を終えて

高橋 姿

90分の対談を終えて、改めて産業界のニーズを明確に捉え、「自律と創生」の理念のもと、変容する社会に適応する人材育成の必要性を感じました。第3期中期目標・中期計画期間（平成28年4月～平成34年3月）において、創生学部の新設や既存学部の改組など、新潟大学が行ってきた学生のための教育改革を継続して推進していきたいと思っています。

大学は、新たな知と価値を創造・発信するものであり、輩出する人材は知識基盤社会の進展に伴い、ますます能動的に社会をリードしていかなければなりません。日比谷様がおっしゃられた「企業とは価値を創造するもの」は、新潟大学での価値の創造を期待するお言葉であり、それを伝えるために、富士ゼロックス株式会社との研究・開発・生産拠点である富士ゼロックスR&Dスクエア、お客様価値創造センターを対談会場にお選びされたと思います。「新潟大学がんばれ！」とのエールをいただき、感謝の気持ちとともに、ますます身の引き締まる思いで会場を後にしました。

※創生学部（仮称）は設置申請中、理系3学部の改組は計画であり、内容等については平成28年4月12日時点における予定であるため、変更となる場合があります。

Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学のみならずサークル活動を始め様々な課外活動で活躍しています。このコーナーでは、そんな青春の1ページをお届けします!

CAMPUS TOPICS

探検部ラフティングチームの世界大会出場が決定!

探検部ラフティングチームのレースラフティング世界大会出場が決定。高橋学長と大浦理事を表敬訪問しました。代表の学生は「海外のチームは自分達よりもパワーがあるので、力でかなわない部分を技術でカバーできるように練習に励みたいで

す。世界大会ではチーム一丸となって、全種目で金メダルを取れるよう頑張ります」と大会への意気込みを語りました。今年の世界大会は10月30日(日)~11月5日(土)にアラブ首長国連邦で開催され、4人チームで4種目の合計点を競います。



提供:一般社団法人日本レースラフティング協会

CIRCLE PICK UP!

児童文化研究部

地域の子どもと触れ合い
楽しませる活動を展開中

「自分たちが考えた人形劇や児童劇、ゲームや歌遊びなどで子どもたちと楽しむ活動を展開しています。各地の公民館から出演依頼を受けるなど、活動範囲は新潟市を中心に県内全域です。夏は「夏季巡回公演」と題して、十日町市や田・山古志村など、約2週間かけて県内各地の小学校を訪問します。部員は現在40名。所属学部が幅広いのも特長です。子どもたちに「楽しかった! また来てね!」と言われた時に最高のやりがいを感じます」

子どもたちの笑顔を見られたときに活動のやりがいを感じます



部長川又勇一さん 経済学部3年



▶学部、学年を越えた40名の部員で活動している
▶人形劇や演劇に使う小道具も部員が作成



サポーター倶楽部には、支援や会員募集について中心となって活動していただける幹事会を設けています。

現在の幹事会の構成法人は、以下のとおりです。(50音順、敬称略)

- 亀田製菓(株) ●株キタック ●株コメリ ●株コロナ
- 株第四銀行 ●日本精機(株) ●株BSNアイネット
- 株福田組 ●株ブルボン ●北越工業(株) ●北陸ガス(株)

幹事以外の会員は以下のとおりです。(50音順、敬称略)

【法人・団体会員】旭調査設計(株) / イーエヌシステム(株) / 岩塚製菓(株) / 株ウオロク / 越後製菓(株) / (株)小川会計 / 開進工業(株) / (株)三條機械製作所 / (株)シーキューブ / 第一建設工業(株) / (株)たかの / (株)タカヨシ / タケシヨウ科学(株) / 田村紙商事(株) / (株)東邦アーステック / (一社)新潟県経営者協会 / 新潟県信用組合 / 新潟総合警備保障(株) / 株新潟博覧堂 / (株)新潟ビルサービス / 西田建設(株) / 原信ナルスオペレーションサービス(株) / (株)ヒウラ / (株)深溝合同事務所 / (株)プレスメディア / 星野電気(株) / (株)本間組 / (株)マルイ / 八洲設備工業(株) / らう造景(株) ほか1

【個人会員】・石田 武裕・大滝 一・桑原 優子・佐藤 洋・高橋 淑子・森 正勝・多和田 孝雄・山田 茂孝 ほか1 (お問い合わせ先)

新潟大学サポーター連携推進室 電話番号: 025-262-5651, 6010 e-mail: kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

サポーター倶楽部への入会申込みは随時受付けています。
(詳細は新潟大学ホームページをご覧ください)
<http://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/>

鈴木正朝 教授

Masatomo Suzuki

Profile
博士(情報学)。専門は情報法、情報法学、個人情報保護法制等を研究。



情報法

改正個人情報保護法と行政機関個人情報保護法
改正法案の概要と課題について学習する

「改正個人情報保護法と行政機関個人情報保護法」が、改正個人情報保護法だ。

その法解釈的検討と立法政策の検討を通じて、情報と法の関係を考察する視点を身に付けるのが講義のねらい。教壇に立つのは鈴木教授。個人情報保護法制、プライバシーの権利、ゲノム情報の法的保護等について研究を行うほか、個人情報保護法改正、番号法、JIS Q 15001の

意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介

—教育の現場—

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

vol.16・法学部

STUDENTS VOICE



右:志田 慧さん(法学部3年)
左:丸山志織さん(法学部3年)

「私たちの日常レベルで生じている法問題について考えさせられる時間です。法律と条例の適応範囲が難しいという矛盾など、より突っ込んだ学びができます」(丸山)

「個人情報保護法に関わる問題は、様々な領域にまたがっています。それらについて細かく具体的な事例をもとに講義が進められます」(志田)

「検討作業、マイナンバー制度の創設にも関与している。『学生は、日本の個人情報保護法制の基本的構造を理解を深め、改正動向とその背景を学びます。今後、日本では少子高齢による人口減少が進み、その結果、年金や医療保険等の財源が枯渇していきます。グローバル化も進み格差もさらに開くでしょう。今の学生が社会に出た時に直面する問題です』また、個人情報と密接に

「すでに実用段階に入った車の自動運転システムも、運用するためのデータは国内にはありません。海外企業の供給管理のもとに日本が動く時代が来ます。今日はドローン運用の際に必要なデータと予想される法規制とその解釈について講義をしました。しかし、どんなに強力な法制度を作ってもデータの管理者が海外の企業では、国民の権利利益を保護するための法執行も困難な状況にあるのです」



「産業界が劣後すればデータは強い方に流れていく。産業振興策と利用者保護の両面を見ていかなければならない。『学生には情報法の解釈を学び、情報社会での生活力を高めるとともに、法律を作るという仕事の意義と興味も高めてほしいと思います』」

新潟大学サポーター倶楽部からの支援

新潟大学サポーター倶楽部は、地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、新潟大学が行なう「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進について、「新潟大学基金」への寄附を通じた支援を行なうとともに、会員への情報発信により新潟大学と会員及び地域社会の連携と発展を目指すことを目的に、平成28年3月4日に設置されました。会員は、法人・団体

および個人とし、年会費(法人・団体は1口5万円以上、個人は1口1万円以上)の全額を「新潟大学基金」に寄附することとしております。会員となられた皆様には、会員名簿のホームページ掲載や附属図書館1階インフォメーションラウンジへの掲載や、感謝状、記念品を贈呈するほか、大学広報誌の定期送付やメールを活用した情報発信を行なっています。また、サポーター倶楽部報告会を年1回開催し、収支状況や支援を受けた事業の報告を行なうとともに、会員同士及び会員と新潟大学との情報交換などを予定しております。

自然科学系 (大学院自然科学研究科)
中野 優 准教授 (専門は園芸科学)



研究
課題

同花被花における 改変ABCEモデルの証明に成功

ユリやチューリップの花に がく片が形成されない理由を解明

実験にはホトギスの花を使用。下段左はがくを持つ花で提唱されているABCEモデル。中央写真・図は、改変ABCEモデルが提唱されているホトギス。Bクラス遺伝子の働きを抑えることにより右写真のようにがくのような器官が形成された



本学自然科学研究科と東北大、北海道大の共同研究により、ユリやチューリップなど、がくと花びらの区別ができない「同花被花」と呼ばれる花の形をつかさどる遺伝子モデル (改変 ABCE モデル) の証明に世界で初めて成功した。

本学からは、中野優准教授と大谷真広特任助教が参加。その成果はイギリスのオンライン科学誌『サイエンティフィック・リポーツ』に掲載された。

共同研究にはユリ科ホトギス属植物をモデルに使用。遺伝子組換えにより B クラス遺伝子の機能を抑制したところ、花びらに代わって、本来ユリ科植物では見られないがくが形成された。「この結果から、ユリなどの植物でがくが作られないのは、Bクラス遺伝子が花の最外部でも機能しているからであることが証明されまし

た。また、Bの働きを抑制することにより、おしべはめしべに変わりました」と中野優准教授。

今後、他の同花被花植物を用いて同様の研究を進めることにより、改変 ABCE モデルの理論はさらに確かなものになると予想される。

「改変 ABCE モデルが証明されたことにより、園芸的に重要な種が含まれる同花被花植物の分子育種が進展することも期待されます。そのような応用研究の基礎になるものと思います」

将来的には遺伝子操作により、がくの緑色が混じった花びらを持つチューリップや、おしべやめしべがなくすべて花びらで構成されるユリが作られる可能性もあるという。今までに見たことのないような華やかな色や重なりを持つ花を作ること

新潟大学の特色ある研究トピックを紹介 注目される 研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

園芸産業にも大きな利益をもたらすことになるかもしれない。

「改変 ABCE モデル自体は 20 年以上前から提唱されてきたもの。多くの研究者がその証明に挑戦してきましたが、うまくいかなかった分野でした。成功した時の興奮は忘れられません。小学生が「どうしてこうなるんだろう」と感じるような単純な知的好奇心のパズルをはめることができたのは、研究者としても大きな喜びです」



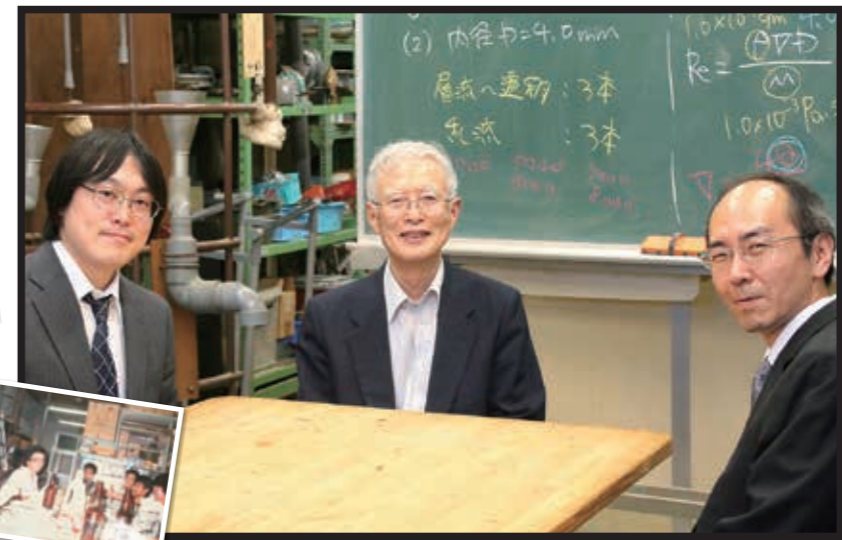
研究をする中野優准教授 (写真左)。右は同研究チームの大谷真広特任助教

恩師：長谷川富市 名誉教授 元・新潟大学工学部教授 X 教え子：関野龍男さん 牛田晃臣さん

撮影場所 / 新潟大学 工学部 流体工学研究室

シリーズ vol. 16 恩師と語らう

師弟で懐かしむ当時の新潟大学



研究室前庭でのパーベキュー



長谷川先生のご自宅

当時の流体工学研究室

牛田 公私を越えた繋がりがあったんです。

関野 私が学部生の頃は「彼女ができたらずいぶん研究室に連れてきて紹介しなさい」と言われました。当時連れていったのが今のかみさんです。先生には仲人もしていただきましたね。

長谷川 私の何よりの自慢は、ふたりとも県外出身ですが新潟の女性を奥さんにもらい、新潟に残ってくれたこと。新潟県に代わって御礼申し上げます(笑)。

先生、この写真はご自宅ですか？

長谷川 そうそう。当時は自宅の物置に学生さん用の食器がたくさん置いてありました。みんなを招いて宴会をした時の写真ですね。一家総動員で宴会の用意をしました。職場の雰囲気も家族に見せることよって理解が得られたんだと思います。学生さんの中には子供のおもちゃをしてくれた人もいましたよ。

と家族の理解がなければいけない。何も研究者に限らず、どんな仕事も同じじゃないですか。あとはご自分も必要ですけど、やることに自分にとっていいことと生懸命にやらないと。好きなことをやるというのが一番いいんです。現実はいかに難しいところもありますけれど。そして、研究も開発も人がやらないことをやるべきですね。

牛田 なるほど。私も学生にそう教えられるように頑張ります。

確認しなさい。固定観念に縛られるな」と教えてくれました。

長谷川 物事には教科書通りにならないこともたくさんあるんです。そこから分かることこそ大事にしてほしいと思いますね。それ

まったく違う世界が見えてくることもあるんですよ。

関野 それが先生の生涯現役研究者としての素晴らしさですね。何か秘訣はあるんですか？

長谷川 基本は健康ですよ。あ



はせがわ とみいち
長谷川富市
名誉教授

工学博士。昭和41年新潟大学卒業後、東京工業大学にて博士課程修了。昭和48年から新潟大学で教鞭をとる。工学部長、大学院自然科学研究科長を務め、平成21年に定年退職。現在は新潟工業短期大学学長。



せきの たつお
関野龍男さん

昭和61年工学部卒業。平成元年修士課程修了後、株式会社ニイガタマシンテクノへ。在籍中に博士課程修了。現在は同社生産設計課長。



うしだ あきお
牛田晃臣さん

平成17年工学部卒業。名古屋大学で修士課程修了。25年から新潟大学工学部機械システム工学科助教。

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

医歯学総合病院 “グランドデザイン2016-2021”を策定

医歯学総合病院では、社会的ニーズ・課題や同院の強み・特色を踏まえ、第3期中期目標・中期計画期間(平成28~33年度)終了時点で、同院がどのような姿であるべきか、そのためにどのような取り組みを行っていくべきかについて、その方向性をまとめた「グランドデザイン 2016-2021」を策定し、5月11日(水)に記者会見を開催しました。

グランドデザインの3つのビジョンである「患者にやさしい高度医療の推進と、健康

長寿社会の実現への貢献」、「グローバルな視点やリサーチマインドを備え、高度先端医療・地域医療においてリーダーシップを担う高度専門医療人の養成」、「本学の持つ各分野の研究能力・実績を実践医療につなげ、医療イノベーションの創出への貢献」について説明を行った後、研究活動や教育活動について、これまでの実績と今後の展望を発表しました。

また、グランドデザインの策定にあわせ、



同院の取り組みを社会に周知しブランドイメージを確立するためにロゴマークを制定し、教職員の業務活動において広く使用することとしました。



腎研究センター設立記念講演会・記念式典を開催

本学の腎研究施設は、国公立大学で唯一の腎に関する特別研究施設として1973年に設置され、ユニークな高度教育・研究を行い、腎臓病基礎研究の発展に貢献してきました。

2016年4月1日、腎臓関連の研究・教育・

臨床機能の更なる充実を図ることを目的として、従来の基礎研究部門に、臨床研究部門、トランスレーショナル研究部門を加え、各部門が三位一体となり腎臓病対策に取り組む“腎研究センター”を設置。5月29日(日)には新潟市内のホテルにおいて、設立記念講演会及び記念式典が開催されました。

記念講演会では、文部科学省高等教育局医学教育課企画官の佐々木昌弘氏から「最近の医学・医療を取り巻く状況」と題した特別講演や「腎臓病の克服を目指した研究の最先端」というテーマで河内裕教授、成田一衛教授、斎藤亮彦特任教授から研究成果の報告などが行われました。



新潟大学学業成績優秀者奨学金授与式を挙行

学業成績の更なる向上と大学全体の活力の醸成を図ることを目的として、各学部の学業成績優秀者に対し返還を要しない奨学金(年間10万円)を授与しています。

4月26日(火)、平成28年度新潟大学学業成績優秀者奨学金授与式が行われ、学業成績優秀者9学部10学科の102人に高橋学長から賞状及び奨学金が授与されました。

学長から賛辞と激励の言葉が贈られると、代表学生からは、「日頃の勉学が、このよう



な形で評価され、名誉ある賞を頂くことができたことを感謝しています。今後ますます



す勉学に励み精進していきます」と力強い抱負が述べられました。



新潟大学
季刊広報誌



R I K K A 2016.Summer No.17

発行/平成28年7月
編集/新潟大学広報センター
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)
電話/025-262-7000
FAX/025-262-6539

Home Page <http://www.niigata-u.ac.jp/>
E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp

Facebook <https://www.facebook.com/niigata.univ>

<https://www.facebook.com/niigata.univ>

定期送付のお知らせ 季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報センターまでご連絡ください。

リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。